

ドン・キホーテ会長 **安田隆夫** 消費税率引き上げを前に小売業からの訴え

60
創刊60周年

財界

ZAIKAI
a Japanese business biweekly

2013 注目企業
新社長の強さと課題
東芝、京セラ、ルネサス、
全日空、三井生命 etc

2013 **3/26**

アベノミクスの今、証券界の役割は？
大和証券グループ本社・日比野隆司の
貯蓄から投資へ、日本再生・所得向上への貢献を

本誌記者
村田博文



◎インタビュー
信越化学工業会長
金川 千尋
オイシックス社長
高島 宏平

表紙の人
大和証券グループ本社社長
日比野 隆司
撮影 齊田 勤



20年来グローバル コミュニケーションズ エキスパート。JAXAエグゼクティブ アドバイザー(広報・国際担当)、国立大学法人山口大学客員教授(国際関係+コミュニケーション論)、評論家・オピニオンリーダー。東京生まれ、英国育ち。講演、テレビ、執筆、政府委員など、マルチに活躍する中で、IRと都市開発のコンサル会社代表も務める。
http://www.nishiuramidori.com

連載 第2回

“国際派大和撫子”が伝える宇宙の開発現場

にしうらみどりの

「宇宙の窓から」

飛翔とMRJ

最近、よく聞かれる質問の一つ。「どうして宇宙をやっているJAXAがB787のリチウムイオン電池を調べるの? ひよっとしてJAXAが開発したものなの?」

これは不具合が生じた某社製造の電池をJAXAが解析することになったという話なのですが、「はやぶさ」以来、お陰様で国民の皆様から幅広く、JAXAとして親しまれ、日本が誇る宇宙機関、NASAの日本版というように認識して頂けるようになりました。そこで飛行機のことまで? という質問に至っているとのこと。答えはシンプル。JAXAがそれだけ技術面で信頼に値すると高く評価されているからです。名前の通り、宇宙航空研究開発機構です。実は多くの優れた技術者を抱える立派な航空センターが調布に存在するのです。

昨年は「飛翔(写真)」という素晴らしい実験用航空機も到着し、発表しました。これは石川隆司・

現名古屋大学教授でJAXA前理事が導入したものです。機体を軽量にする炭素繊維も教授が育ての親。軽量になれば、燃費がよくなり、環境に優しいですし、他にも騒音を抑えるソフトウェアの開発にも成功しました。

研究用に改造された8人乗りの「飛翔」は様々な実験に使われたり、民間航空機会社の開発機が飛行試験をする際の練習台の役割も果たします。独自の航空機だけでなく、日本の航空技術が世界トップレベルになるために、あらゆる貢献をしています。

その代表格が三菱航空機のMRJでしょう。それなら既にカンパニージェットとして、あるいは自家用に注文した! という読者の方々もいらつしやるかもしれません。こちらにも極めて美しく、開発にはJAXAの技術がたくさん使われています。

例えば、先進空力設計。これは、いかに風(空力)の抵抗を少なくするかということ。これも前述の

機体軽量化同様、燃費に貢献します。J

AXAの精度の高い風洞設備の協力とスパコンこと、

日本の優秀なスーパーコンピューターやソフトウェアを用いて計算し、騒音発生を低減させ、空気抵抗も抑えることに成功したのです。やはり、一番でなければダメですね。

こうしたことが、低燃費、すなわち、CO₂排出量が競合機より25%以上も低減できたという素晴らしい成果をもたらしたので、MRJの商品力の高さが生まれました。石油価格の高騰といった問題を抱える航空会社にとっても、魅力的に映ったに違いありません。

揺るぎない安全性、技術面では胸を張れますから、今度は内装のデザインもワンパターン化せず、オリジナリティー溢れていて、それぞれのクライアントニーズを満たしながらも、夢の空間になるような内装デザインを提供して欲しいと思っています。



©JAXA